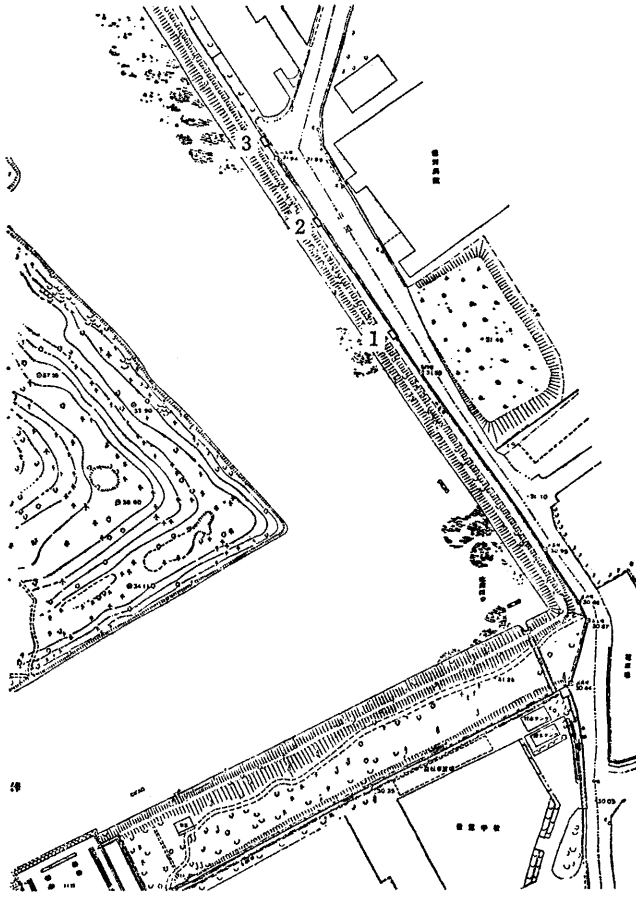


版会)

西田史朗・渡辺正巳 一九九二 (難波宮) 二期二次調査において検出された小  
山ガラスのEDX分析。難波宮址の研究、第九、二八四―二八八 (財)大阪市  
文化財協会



第17図 三嶋藍野陵調査箇所の位置 (1/1500)

### 三嶋藍野陵東側金網柵工事箇所の事前調査

継体天皇の三嶋藍野陵の東側外堤南半部が隣接する茨木市道の東太田一丁目目太田三丁目線の拡幅改良工事が同市によって計画された。その一環として当陵界標三二〇三四号間の長さ四メートルにおいて、陵墓地外にある金網柵を撤去し、かわって陵墓地内に金網柵を設けることとな

った。そこで当該工事箇所の事前調査を行なった。その結果、埴輪列など原初の遺構は認められず、工事の掘削範囲は二次的な盛土層と思われたので、当初計画通り施工することとした。工事の掘削にも立会ったが、事前調査と同じ様相で特別な所見はなかった。

事前調査は、平成六年十二月十二日～十五日の四日間、第17図の位置に二メートルのトレンチを三箇所設け、深さ〇・六メートルまで発掘して調査した。

調査地における基本的な地層は次のとおりである。

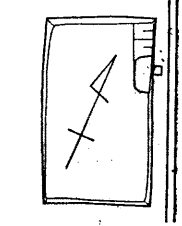
I層 客土。

II層 表土。一部ではこの層の上をI層が覆う。

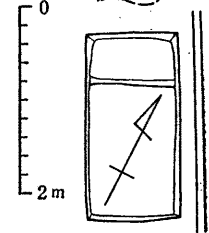
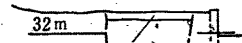
III層 後世の盛土層またはその可能性のある地層。

IV層 攪乱層。盛土層の疑いがある。

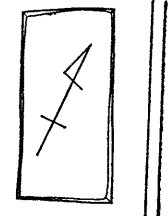
各トレンチの状況は、以下のとおりである。



1. 第1トレンチ



2. 第2トレンチ



3. 第3トレンチ

第18図 三嶋藍野陵  
トレンチ平面および  
断面 (1/80)

遺物は、  
埴輪円筒一  
三片、陶器  
一片、磁器  
二片、炆器

第1トレンチ (第18図1) 旧表土の上を客土が覆う。これは、昭和六十一・六十二年度施工の外堤内法裾の石積護岸工事の際、掘削残土を外堤上に盛上げたものである。旧表土下には、径二〇センチ以下の大小の河原石を数多く含む盛土層である。磁器・炆器を包含する。ただしIII層中のイ層は遺物を包含せず、地山の可能性が残る。盛土層と切合った攪乱がトレンチ東壁沿いに南北に走る。その中に埴輪片を含む。

第2トレンチ (第18図2) 表土の下は厚い盛土で、粘土小塊・小さな風化した河原石を含む固い砂質土である。上部から埴輪片が出土した。この層の下部には、間に上層と同質の土を含む拳大の風化した河原石からなる礫層がある。

第3トレンチ (第18図3) 表土は、トレンチ北半が踏固めたように固く、一部を客土が覆う。表土の下は、盛土で、第2トレンチと同じく粘土小塊を含む砂質土である。風化した埴輪片のほか、発掘床面近くで陶器片が出土した。

以上のとおり、第1トレンチのイ層に検討の余地があるが、調査範囲は後世の盛土層で、埴輪列等の遺構は検出されなかった。

一片の計一七片である。いずれも小片である。翌平成七年三月二十・二十二日の二日間、新設する金網柵の基礎掘削工が行なわれた。これに立会って調査したが、どの基礎掘方からも埴輪列等当初の遺構は検出されなかった。

(笠野 毅)

男狭穂塚女狭穂塚陵墓参考地外周埴垣改修その他  
工事に伴う調査

宮崎県西都市に所在する西都原古墳群は、学史的にも著名なわが国多数の古墳群である。近年、関係機関により古墳の位置する西都原台地の土地改良事業に伴う事前発掘調査が実施され、また、古墳の再実測なども継続的に行われつつあり、当地の古墳研究は新たな段階に突入したといえよう。

一方、本古墳群の盟主的存在である男狭穂塚女狭穂塚陵墓参考地においても、それぞれに所屬すると思われる埴輪が知られるようになったこと